

2025年度 法科大学院

第4期入学試験問題

4 時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80 分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 必ず「民事訴訟法」の解答は「民事訴訟法」の解答用紙に、「刑事訴訟法」の解答は「刑事訴訟法」の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

死亡したAには、相続人として妻B、長男C、長女D及び二男Eがいる。亡AとBが居住していた土地建物（以下「本件不動産」という。）について、Bは、Aの生前にAから贈与を受けたので、亡Aの遺産ではなく、自己の所有財産であると主張した。これに対して、Cは、本件不動産は亡Aの遺産の一部であると主張し、DもCの主張に同調した。そこで、CとDは、本件不動産がAの遺産に属することの確認を求める訴え（以下「本件訴え」という。）の提起を検討している。

問1 本件訴えに確認の利益が認められるか否かを論じなさい。

問2 CとDが、Eを原告にも被告にも加えず、Bを被告として本件訴えを提起した場合、裁判所は、本件訴えをどのように扱うべきかを論じなさい。

なお、問1で論じた点を再論してはならない。

以 上

[刑事訴訟法]

- 1 令和6年10月20日午後3時ころ、都内A区B公園で、若者のグループ同士が殴る蹴るなどの乱闘騒ぎを起こして負傷者も出る傷害事件（以下「本件」という）が発生した。都内A区のC派出所に勤務していた警察官Kらは、「多数の犯人が逃走中である、なお、その若者らは黒いヘルメットと白いヘルメットをかぶっている、また、鉄パイプで顔面を殴られ多量の出血をしている者がいる」との無線連絡を受けて、現場から逃走してくる犯人を警戒中であった。Kらは、犯行終了後約1時間半後に、現場から約4キロメートル離れた地点で、足を引きずりながら急ぎ足で歩いてきた若者2名を発見した。その1名（X）は頭部に黒いヘルメットをかぶっており、もう1名（Y）の白い上着には血痕に見える赤い汚れがべったりと付着していた。Kらは、両名の様子を見て、本件の関係者である疑いが強いと考え、職務質問しようと両名に声をかけて停止を求めたところ、両名は走って逃げだしたので、①Kらは逮捕状を請求することなく、同日午後4時30分ころ、XとYを逮捕した。
- 2 Kらは、XとYを逮捕した路上で、両名の上記ヘルメットや上着などを差し押えようと考えた。しかし、両名から抵抗されたため、その場所が道幅の狭い道路であり、通行人や通行車両などに混乱を招くおそれがあると考えて差し押えを止め、警察車両に両名を乗せ、逮捕場所から約2キロ離れた最寄りのD警察署に連行し、逮捕から約1時間後に、②搜索差押許可状を請求することなく、上記ヘルメット、上着等を差し押さえた。

[設問]

Kらが行った上記①及び②の各手続が、適法であるか違法であるかを説明しなさい。